とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
本紙購読料　1部35円　1カ月100円　1カ年前納1,000円

宮口氏は有利に展開か

朝日道議引退の影響？

四月の道議選に向つて各予定候補者ともに後援会活動たけなわのおりから、歴戦の現職道議で自民党公認の朝日昇氏が突然このほど健康上の理由で「今期かぎりで引退」の意思を明らかにしました。

同氏の健康の思わしくないのは昨夏いらいのことでいまになつて引退の真の理由は、地元の浦幌町での選挙体制が不充分なことと、頼みとする池北線で宮口氏雄氏にかなり地盤を侵蝕されるのではないかとの見通しによるものと観測されています。

どちらも池北線三町での得票に左右されるものとの見方で、朝日氏が当選すれば宮口氏は落選、宮口氏があがれば朝日氏はスベるだろうとみられていただけにその相手の朝日氏が戦列から消え去つた影響はどんなものかを、宮口後援会の大滝弥助会長らの幹部にきいてみました。

後援会の幹部にきく

―朝日氏の引退によつてが、へつたのはほかでもない宮口とともぐいの地帯なので、朝日氏が前回に本別での三千七百票、足寄での二千四百票、陸別での一千四百票は、遠い親戚よりも近くの他人ということでかなり宮口に替つてくるし、運動がし易く朝日氏引退はプラスになつた

―しかし道議会の場合はハツキリと自民、社会の二大政党の対立の姿にあつて無所属での確率はすくないのではないか

宮口の場合はもちろん三町が基盤だが、十勝管内でただ一人の創価学会本部の理事として十六年間にわたつてこの管内での最高指導者として信望が厚く、全管内八千票の基礎票の二割増しを目標に全会員が一丸となつていることで、宮口の無所属は特殊なケースといえよう

―それなら公明党を名乗つた方がスッキリするのではないか

その点で一部の町村の公明党から意見が出されたが、宮口が地元から超党派で推された経過からしてこれを裏切つて一党一派にかたよることはできない、このことは本部の矢野書記長の諒解を得て離党したもので、当選したあとで公明党に復党することはない、このことを理解してくれて全同志はガンバツている

―当選への見通しはどうか

朝日道議の引退によつて当選ラインは一万六千票から一万八千票に引きあげられたが、十九カ町村の創価学会組織は一昨年の衆議選における細野重利票の二割増の達成に向つており、これは組織外の人には想像のできないほどに熱の入つた体制にあること、失礼だがどの候補も老令化しているのにたいして宮口の若さと清新さが既成政党にあきたりない人々にうけ入れられているが、問題はなんといつても地元三町で大量得票ができるかどうかということで、足寄町内の各部落に後援会の支部ができ陸別町にも後援会が結成され本別町にもその動きがあり、しだいに地元ただ一人の宮口への気運はたかまつており、三十四年に三町を基盤にして第三位で当選した故岡崎光三氏の三町以外の得票が二千二百票だつたのにたいして宮口の場合は、すでにその四倍は確定的なので、あとは三町の有権者が岡崎氏同様に支援されれば当選は間違いないといえる

復活めざして

足寄町議選へ

統一地方選挙のなかでもつとも身近な自治体議員選挙への動きは新春に入つて活発しつつあります。ほぼ顔ぶれが出そろつた形の足寄町の場合は、前一定議員の復活登場が目立つていますが、立起予定者はつぎのとおりで

△東区　新沼芳雄氏（現）
△西区　我妻茂治氏（現）と久保田庄太郎氏（前）
△南区　斉藤昇氏（現）と加藤伊三郎氏（現）
△中央区　矢野寛一氏（現）と湯浅義雄氏（前）と両角章氏（新）
△旭町　多田梅松氏（現）
△下足寄　斉藤祐一氏（現）
△共励　香川博彦氏（現）
△足寄　宮川孫市氏（前）
△中足寄　伊藤義夫氏（現）と西村彦三郎氏（元）
△稲牛　佐々木政一氏（現）
△ラワン　青木収氏（現）と阿部俊夫氏（現）
△上足寄　鷲足憲氏（新）
△愛冠　神本三也氏（現）と大野耕太郎氏（現）
△鷲府　大久保繁氏（現）
△上利別　鳴海一郎氏（現）
△塩幌　高橋募氏（新）
△白系　遠山謙氏（現）と浅川昭二氏（新）
△大誉地　多田坂栄氏（現）と工藤勇作氏（元）
△中矢　大滝弥助氏（現）
△芽登　吉田吉之助氏（現）と福本義輝氏（現）
△喜登牛　加藤甚一氏（前）と太浦勉氏（元）

現議員二十一名、前議員四名、元議員三名、新人四名の計三十二名で、いつもより新人がすくないことです

佐藤首相退陣せねば

二十五日からの国会の代表質問では、野党ばかりでなく与党の鈴木総務会長の中国問題にたいする前向きの質問にも、佐藤首相は依然として後ろ向きの答弁。

× ×

世界の大勢に逆行して、ひたすらアメリカとタイワンの顔色をうかがつている〝大国ニツポン〟の首相。

× ×

佐藤首相が退陣しなければ中国問題の打開はあり得ないとするならば、佐藤内閣がつづけばつづくほど日本の国益を害していることになるのだが―。

農事放送電話が完成

足寄町が昭和四十二年に山村振興法の指定をうけていらい全農家を対象にした農事放送施設を振興事業としてとりあげ、農業団体による農事放送施設整備委員会（斉藤祐一委員長）を事業主体にして

国の補助金	三五、三二四千円
道の補助金	八、七二八千円
町の補助金	一八、九五〇千円
借入金	四一、四九〇千円
受益者負担金	三二、〇〇〇千円

の合計一億三千六百四十九万二千円の資金で、電電工事はホクレン（請負は松下通信工業など）建物工事は鳥羽組によつて四十四年九月に着工、建物は昨年五月に完成、電話は十月に九百五十戸にとりつけられ十一月には道電波管理局、電報電話公社などの検査に合格して十二月二十八日午前九時に公社線に接続となりました。

よろこびの竣功開通式典は二十一日に整備委員会の主催でおこなわれましたが午前十一時すぎから町役場近くの施設本部に斉藤委員長、小林町長、大滝議長をはじめ工事関係者、来賓などによつて修ばつ、操作室へのテープにはさみ入れ、スイッチ入れの開通式のあと、正午すぎから公民館に各部落の代表者百余名も参集して、斉藤委員長の式辞坂口農協参事の工事経過報告につづいてホクレン、松下通信工業、鳥羽組社長鳥羽生一氏らに感謝状と記念品がおくられ、小林町長、岩城釧路電気通信部次長、宮口町議会総務委員長から祝辞があり、ホクレン代表の謝辞があつて式をとじ祝賀会に入りました。

この電話施設は、全自動式、秘話個別呼び出し式のクロスバ交換機によるもので、現在もつとも新しい方式として道内では三番目の施設となつています。

加入者からの通話区域は現在、足寄、大誉地、芽登陸別、仙美里、本別、勇足池田、帯広、大正、川西、中札内、更別の十三局にかぎられていますが、これは漸次区域をひろげてゆく予定で、日本一広面積の町としては待望の画期的な施設といえましょう。

鳥羽組が完成した施設本部

京呉服・婚礼衣裳
美しい　きものと　帯は
久保呉服店で
足寄町　T　四一二八

躍進めざす総合建設
有限会社 協栄建設
代表取締役　中山源吾
足寄町西区　電話二五六九番

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二二一番

みなさま待望の春一番！
京呉服会展示
京都初倉開品を買いつけて参りましたので近日中にはなばなしく開催いたします
追つて御案内状は差し上げますが御期待下さい
その他春もの衣料品も各産地から続々入荷中です
株式会社 前田呉服店
足寄駅前商店街　電話二〇二二番

祝完成
足寄町有線放送電話施設
施工者
有限会社 鳥羽組
代表取締役　鳥羽生一
足寄町西1区　T　2080
菅野建材店　帯広市　T　3-9191
桜井建具店　足寄町　T　2362